

船橋が中曽根反動内閣打倒を！ 4・12総決起集会での中江候補の決意表明に昌夫

日刊 勤労千葉

83. 4. 15

No. 1316

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電二九三五〇六・公巻三三三二七二〇七)



平和か軍拡かをかけた八三政治決戦

四月十四日の告示をもって、中江選挙闘争は本番に突入しました。全組合員が総決起し、船橋全域を駆けめぐっています。本号では「4・12中江昌夫 選挙闘争勝利総決起集会」における中江候補の決意表明の要旨を掲載します。

第二は市民生活の向上、福祉の向上です。市は国からの交付税、一八億五千万円が削減されました。これは市の無計画なツケがいままわつてきているのです。長期的な夢のある文化都市船橋の実現をめざしたいとおもいます。

第三は学校教育の問題です。非行、暴力問題がマスコミをにぎわしています。偏差値や輪ぎりをつくって落ちこぼれをつくっていることが原因です。生きた教育が必要であり、そのために四十人学級の実現をめざします。

第四は開発のひずみを是正することです。河川のはん乱は大手の乱開発を許しているからで、青空討論会や集会開催を市に要求し、市と市民を直結させることで市民生活を守っていききたいとおもいます。

第五は私の信念とこれまでの経験を生かし、ぜひ当選したいとおもいます。そのことが船橋を大きくかえていくことになるのです。

船橋は、習志野第一空挺団のクーデター計画、下総基地米軍使用問題をみるまでもなく、かつての軍都にかえりつつあります。

私は働く者の代表として、船橋を平和な文化都市につくりあげ、社会党の信頼回復と行動する党づくりをやりぬきたいとおもいます。

多くの方々からの激励のことばに、まずお礼を申し上げます。

私は一九三〇年生まれですが、今の世の中が、一九三〇年代と経済も政治の状況も同じだといわれています。一九三〇年代とは十五年戦争に突入する時代です。そしていま、私に政治の改革をめざす場を与えていただいたことは奇しき 因縁だとおもいます。

私は逆境をはいあがってきた人間です。

中曽根内閣が誕生して五カ月、この間、日韓軍事同盟を強化し、日本の核武装化にむけた「不沈空母」「四海峡封鎖」発言を行い、平和を求める国民に対決してきています。八三年政治決戦として、戦後の総決算をかけてたちむかっています。

戦後三七年の政治の総決算とは何か。

国民が血を流してかちとつた憲法を改悪し、徴兵制を復活させ、労働組合や民主団体を弾圧し、軍事国家への道をひらくものです。

従って八三年政治決戦は、平和か軍拡かの決戦です。北海道、福岡の勝利は、戦後最悪の反動内閣・中曽根に抗する市民の声です。市会での勝利が参院・衆院で勝利する基礎となるのです。

五つの約束をしたい

私は選挙を通じ、約束したいことが五つあります。

第一は生活の根本である平和を基調において、平和憲法を生活に生かしていく。具体的には船橋を「反核・護憲・平和都市宣言の街」を実現したいということです。この船橋に、平和を願う市民の声が満ちあふれています。私達は昨年十月から署名運動をはじめ、またたく間に八千名の署名を集めました。ところが市議会は十五分で否決しました。これは市議会が中曽根に直結しているというものであり、市政を市民の手にとりもどさねばなりません。

また、船橋は十月にスポーツ都市宣言を行う予定です。しかし、平和なくして市民生活の安全もありません。



駅頭での反核パネル展に見入る船橋市民